

## 全国財務局長会議資料

1. 最近の中国財務局管内の経済情勢
2. 中国地方の経済構造と産業構造



令和7年7月29日  
中国財務局

【お問い合わせ先】  
財務省中国財務局経済調査課  
電話 (082)221-9221

# 1. 最近の中国財務局管内の経済情勢

	前回（7年4月判断）	今回（7年7月判断）	前回比較	総括判断の要点
<b>総括判断</b>	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある		個人消費は、物価上昇の影響がみられるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。 生産活動は、輸送機械などが増加しているものの、化学などが減少しており、横ばいの状況にある。 雇用情勢は、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、緩やかに改善しつつある。

〔先行き〕

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

	前回（7年4月判断）	今回（7年7月判断）	前回比較
<b>個人消費</b>	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	
<b>生産活動</b>	横ばいの状況にある	横ばいの状況にある	
<b>雇用情勢</b>	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	
<b>設備投資</b>	6年度は前年度を上回る見込み	7年度は前年度を上回る見込み	
<b>企業収益</b>	6年度は増益見込み	7年度は減益見込み	
<b>企業の景況感</b>	「下降」超に転じている	「下降」超幅が拡大している	
<b>住宅建設</b>	前年を上回る	前年を上回る	
<b>輸出</b>	前年を上回る	前年を下回る	

※7年7月判断は、前回7年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

# 2. 中国地方の経済構造と産業構造

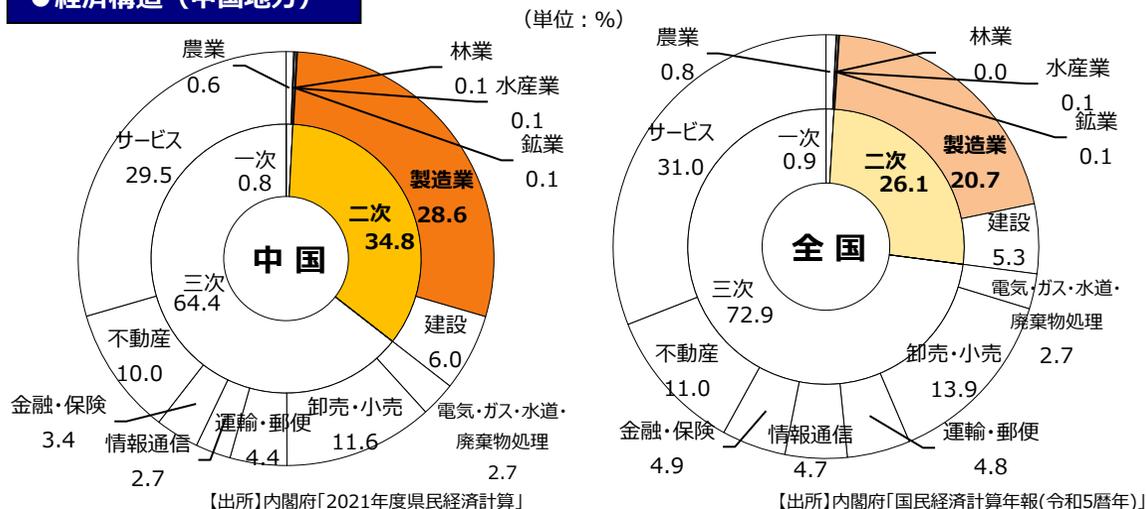
- 中国地方は、人口や県内総生産の全国ウェイトが5%台である一方、製造品出荷額等は約8%を占めており、ものづくりの拠点となっている。
- 中国地方の経済構造を見ると、全国に比して製造業のウェイトが高い。地域別に見ると、山陽地方においては重化学工業メーカーの製造拠点が集積していることなどを背景に製造業のウェイトが高く、山陰地方においては高齢化が進む中で保健衛生・社会事業(介護等)のウェイトがやや高い。
- 中国地方の人口は、全国に比べ13年早く1995年の777万人をピークに減少に転じ、今後も減少傾向が強まる見込み。また、高齢化も全国を上回って進行。

## ● 中国地方の経済規模 (全国ウェイト)

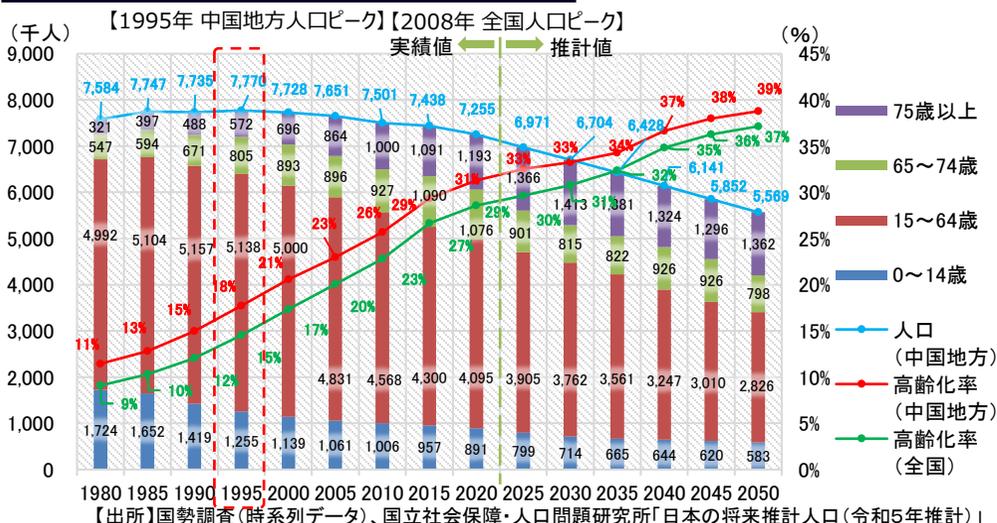


【出所】国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調(令和7年1月1日時点)」、総務省「人口推計(令和6年10月1日時点)」、「令和5年経済構造実態調査」、内閣府「2021年度県民経済計算」、財務省「貿易統計(令和6年分)」

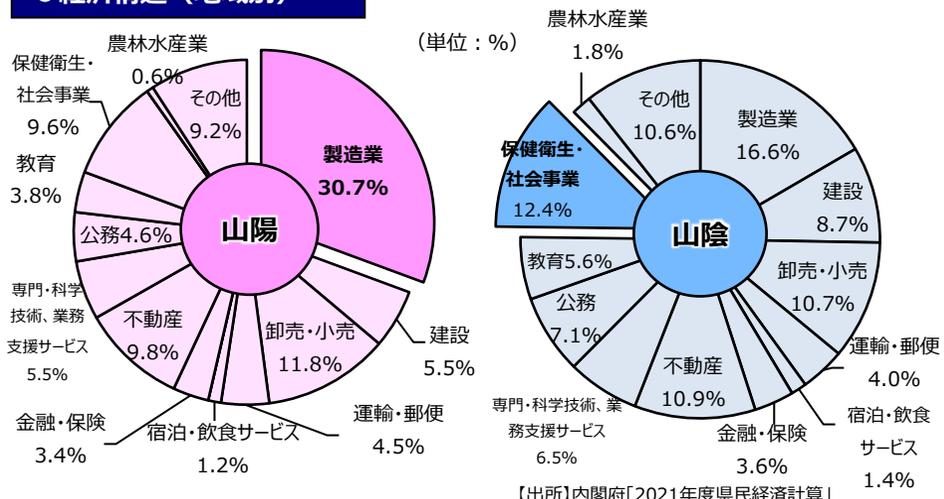
## ● 経済構造 (中国地方)



## ● 中国地方の人口・高齢化の推移と将来推計



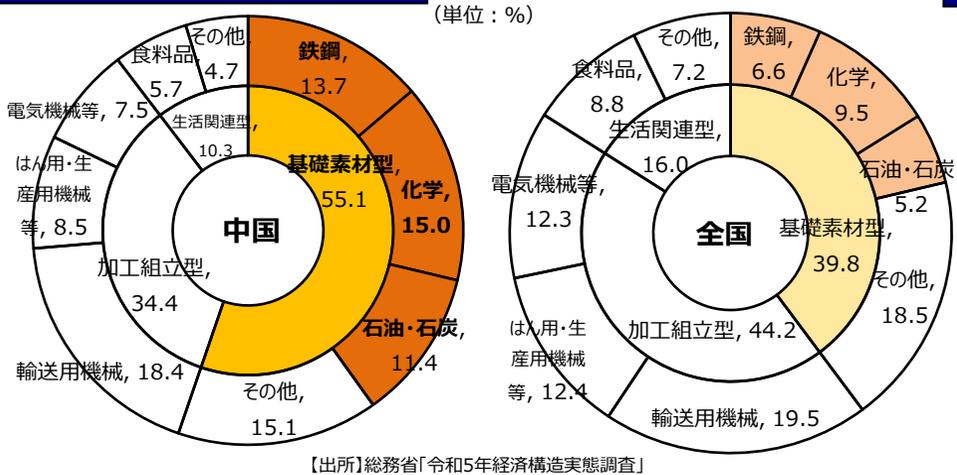
## ● 経済構造 (地域別)



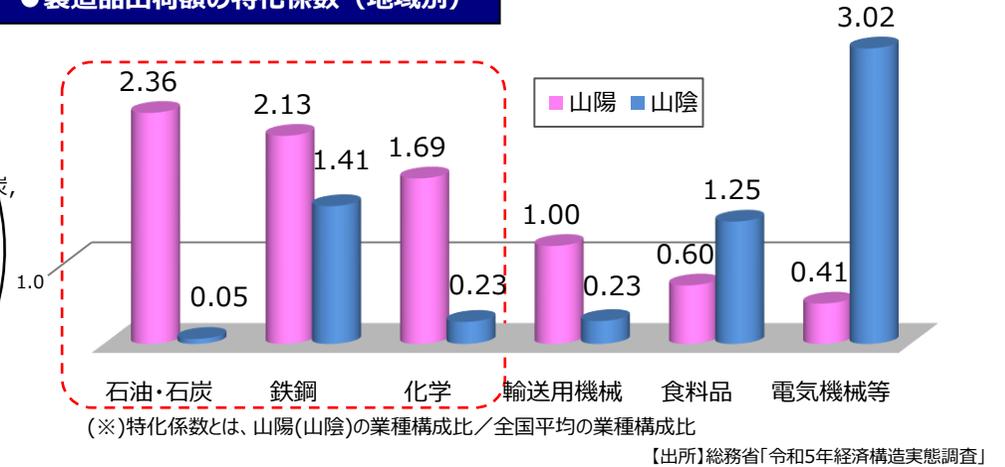
# 2. 中国地方の経済構造と産業構造

- 中国地方の製造品出荷額等を見ると、基礎素材型産業の割合が約55%と高く、全国（約40%）を大きく上回る。次に、加工組立型産業が約34%の割合となっている。
- 地域別に特化係数を見ると、山陽地方では、石油・石炭、鉄鋼、化学のウエイトが高く、山陰地方では電気機械等のウエイトが高いなど、山陽と山陰で製造品の構成比が大きく異なるのも中国地方の特徴。

## ● 産業構造（製造品出荷額等）



## ● 製造品出荷額の特化係数（地域別）



## ● 基礎素材型産業の主な集積地



## ● 加工組立型産業の主な集積地

